

令和5年度 第1回 国際交流委員会

2023/04/15 16:00~17:20

東北大学医学部 星稜会館「2F 小会議室1 (ハイブリッド開催)

出席者：萩原 先生、康 先生、大川 先生、工藤 先生、岡田 先生、
柳原 先生、佐藤 先生、村上 先生、橋口

1. ASEAN 諸国から一般演題の受入れについて

- ・ 2022年10月大会時、委員会での協議を踏まえて、橋口、萩原先生、石川さん、サンプラネット様と海外からの演題受付に関して打合せを行った。後日、サンプラネット様からの回答より、演題募集や抄録作成など、50演題を境に対応パターンが違ってくるが、費用面ではそれほど大きな問題ではないと認識。対応すべきこととして、学会会員登録と学会参加費用が必要となるが、学会として海外の方々への対応に時間を要する状況であり、まずは国際委員会のシンポジウム企画の中で一般の演題を10題くらい集めて、シンポジウムの枠組みの中で一般演題の発表をする方向とする（シンポの枠組内であれば、会員登録や参加費のハードルは回避できる）。
- ・ 一般演題をシンポ枠で実施するのは、次年度（第56回大会）以降とする。
- ・ 学会細則の確認を含め理事会の承認をいただきながら進めていく。

→上記の内容にて委員の認識を共有した。海外からの演題登録について学会の細則の確認を含め理事会の意見を伺いつつ進めて行く。英語版ポスターは既にホームページに掲載されていることも情報を共有した。

2. 第55回大会 国際交流委員会シンポジウムについて

テーマ：次世代に繋ぐ国際交流（仮）

- ・ 10月6日（金） 13:00～15:00 JCLS 国際糖尿病 WG シンポジウム（仮）

→（大川先生）残念ながら令和5年度医療技術等国際展開推進事業は不採択となったがインドネシアとの交流は継続していく予定である。インドネシアの内分泌学会と臨床病理学会から一人ずつ招聘する予定である。日本からは佐藤先生と三浦先生にご発表いただく予定である。

- ・ 10月7日（土） 13:00～15:00 JACLaS award シンポジウム（仮）

→（萩原先生）既に学会の企画としてJACLaS award I・IIが存在して募集をしている。この際の表彰状は学会とJACLaSからの授与となる。今回は国際交流委員会シンポジウムの企画としてJACLaSの国際化推進委員会に共催いただき進めているが、表彰状は学会とJACLaSからの授与となる。この観点からJACLaS award I・IIと並行して行うとなると、委員会企画として納まる話ではなくなる、この点で今回は齟齬があるが、本日の理事会にて今回は委員会企画の中にInternational Awardを創設してトライアル的に実施させていただきたいということで許可をいただいた。次回以降の開始については今回開催の内容、課題を評

価した上で、継続するとなれば JACLaS International Award (仮称) として「学会全体の募集として展開する位置付けにする」と考えていることも併せて理事会にて説明した。

→ (康 先生) 元来、シンポジウムと Award は切り離して考えられるべきであり、Award は学会から授与されるべきである。来年は理事会の承認を得て JACLaS award III として行うべきである。今年は JACLaS International Award (仮称) として委員会企画とするか、あるいは (理事会にて問題になるようであれば) JACLaS award I・II の中に組み入れる考え方もある。

→ (ACLaS 岡 様) 現状の企画案について学会を通じて案内を開始させていただきたいとのご意向をいただき、企画案を委員会にて共有のうえ進めていただくこととなった。

・ 10月8日(日) 13:00 ~ 15:00 JCLS 若手国際交流シンポジウム (仮)

(岡田 先生) 若手研究者による臨床化学に関連する発表を通じて、情報交換と国際交流を図ることを概要とし、ROMMEL SASEDA 先生 (St. Lukes Medical Center) とタイからの演者、日本からは岡田 先生と武村和哉 先生 (大阪公立大学医学部附属病院) にご発表いただく予定である。また、発表が確定した演者には学会ポスター (英語版) と抄録フォーマットを送付済みである。抄録は一旦、岡田 先生にて集約の後、委員会にて共有の予定。〆切を 5/22 日に設定している。

(工藤 先生) 現在タイはお正月休み中でお返事が遅くなっているが、タイの信頼できる方より、タイの全大学の学部長の先生方と連絡を取って適任者を選出中との連絡があった。

→ 下記の事項について委員会の認識を共有した。

- ・ 招聘する演者には航空運賃 (エコノミー)、宿泊費 (最大 15,000 円)、交通費 (実費) を支給する。総額は最大 20 万円とする。
- ・ 総予算として国際交流委員会からの支出を 100 万円以内とする。
- ・ 航空チケット・宿泊の予約は (総額 20 万円も決まっているので) 演者にて購入いただく、あるいは希望があれば宿泊先を紹介する等、フレキシブルに対応する。購入時の為替レートを確認していただく。
- ・ シンポジウムのチラシ (英語版) 作成について、大川 先生、岡田 先生にイメージをお考えいただく様をお願いした。

今後の確認事項

- ・ 演者への依頼状について

3. 上海市医学会、上海市医学会検査医学分会からの打診について

(康 先生) 中国の復旦大学附属華山病院 (上海) から、「日本の病院の検査科長などの検査方面の専門家を招待して、上海で 2023 年に開催される東方検査医学学術会議に参加して頂

き、学術交流を行いたい」と依頼があった。

この依頼について

- 1) 9月上旬の上海の学会で少なくとも1名（康先生）は参加可能。しかし、9月20～23日は既に康先生に予定が入っているので、この期間の際は他の発表者を考慮する。
- 2) 費用について中国側から負担できない可能性があり、中国からの負担は無くても可能と回答した。
- 3) 10月の横浜での大会では国際交流委員会のプログラム内での上海からの参加者の発表は出来なくても参加させていただければ大丈夫とのこと。
- 4) 10月の横浜での大会に上海からの学会参加者に対しては旅費の負担はできないが招聘状を発行することは可能である。

インドネシアとの交流は日本の技術移転が主目的であるが、本件は中国との学術交流を目的とするものであり、並行して前向きに進めることとする。

窓口は康先生にお願いして、計画がある程度固まったら理事会に諮ることとする。

4. 特別賛助会員への活動報告について

（橋口）対面によるフォーマルな活動報告会を計画する。

5. 令和5年度医療技術等国際展開推進事業について（報告）

（橋口）今年度は残念ながら不採択であった。捲土重来を果たしたい。

ご意見

（工藤先生）Huy先生が10月の大会に是非参加したいとおっしゃっておられるとのこと報告をいただいた。

（柳原先生）対面による国際交流が益々活発になることを期待しているとのこと言葉をいただいた。

（村上先生）ASCPaLM、WSCPaLM、インドネシア、フィリピン、ベトナム、上海など多くのチャンネルがあるが、インドネシアはASCPaLM、WSCPaLMとのチャンネルとも重なっているので効果的に連携していくと良いと思われる。フィリピン、ベトナムはASCPaLM、WASPaLMと関わっていないので、是非広げていければと考える。中国との連携も是非進めていただきたいとのこと指導をいただいた。